

年金投資基金信託 商品概要説明書

項目	内容
1. 商品名	りそなDC信託のチカラ 国内株式+ (プラス)
2. ご利用者	当商品を選定されている確定拠出年金プランの加入者および運用指図者の方 (ただし、名義は、確定拠出年金制度において年金資産を管理する日本カストディ銀行となります。)
3. 商品分類	年金投資基金信託/アクティブ型
4. 商品属性	
当初設定日	2014年 3月 28日
信託期間	無期限
クローズド期間	ありません。
主要投資対象	東京証券取引所第一部に上場する国内株式に投資するアクティブ運用の年金投資基金信託受益権に投資を行います。
運用方針	バリューやグロースといった特定のスタイルにこだわることなく、投資家の期待値の変化がもたらす株価変動を予測することで、どのような局面でも東証株価指数(TOPIX) 配当込み指数を安定して上回る投資成果をめざします。
主な投資制限	東証株価指数(TOPIX) 配当込み指数を上回る投資成果を目指す年金投資基金信託受益権と、短期金融商品以外への投資は行いません。
ベンチマーク	東証株価指数(TOPIX) 配当込み指数
決算日	毎年8月31日(休業日の場合は前営業日)
収益分配	収益の分配は、原則行いません。
5. お申込み方法	当プランにおける拠出金または他の運用商品の売却資金により購入できます。
お申込み単位	1円以上1円単位
お申込み価額	購入約定日の基準価額
6. 解約方法	当プランで選定されている他の運用商品の購入資金に充当する場合は自由に解約できますが、確定拠出年金関連法令で定められている一定の給付事由以外は現金でのお引出しはできません。
解約価額	売却約定日の基準価額
7. 費用	この商品には次の費用がかかります。
販売手数料	ありません。
信託報酬	純資産総額に対して年0.99%(税抜年0.90%)
信託財産留保額	ありません。
その他費用	<ul style="list-style-type: none"> ● 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等は、信託財産から支払われます。 ● ファンドの組入れ有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料および有価証券にかかる手数料等は、信託財産から支払われます。この他に、売買委託手数料および有価証券にかかる手数料等にかかる消費税相当額、信託財産に属する資産を外国で保管する場合に要する費用等についても信託財産から支払われます。
8. お申込み不可日等	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年、2月末日と8月末日(休業日の場合は前営業日)および3月1日と9月1日(休業日の場合は翌営業日)は、ファンドの会計処理のため、取得申込・解約請求を受付できません。 ● 金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、ファンドの取得申込・解約請求の受付を中止する場合があります。また、確定拠出年金制度上、お取扱いできない場合がありますので弊社コールセンターにお問合せください。

(運営管理機関)りそな銀行

項目	内容
9. 課税関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 確定拠出年金制度においては、換金時、償還時、収益分配時の利益に対して課税されません。 ● 加入者および運用指図者の年金資産残高に対して、約1%の特別法人税等が課税されますが、その適用については現在凍結されています。
10. 利益の見込み 損失の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ● 基準価額は、後述の「基準価額の主な変動要因等」により、下落する場合があります。したがって、購入者の皆さまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。また、将来の基準価額の予想ができないことから、利益の見込みを事前に示すことはできません。なお、当ファンドにおける運用により信託財産に生じた損益はすべて購入者の皆さまに帰属します。 ● 当ファンドの基準価額は弊社コールセンター、Web等で開示します。
11. 基準価額の主な 変動要因等	<p>ファンドは、株式などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。主なリスク要因は次の通りです。</p>
価格変動リスク	株式は、国内および国際的な政治・経済情勢の影響を受け、価格が下落するリスクがあります。一般に、株式市場が下落した場合には、その影響を受けファンドの基準価額が下がる要因となります。
信用リスク	債券および短期金融商品に債務不履行が生じた場合または予想される場合、もしくは株式の発行会社の経営・財務状況の悪化やそれに伴う外部からの評価の悪化等により、当該商品の価格が大きく下落し、その影響を受けファンドの基準価額が下がる要因となります。
流動性リスク	一般に株式は高い流動性がありますが、市場動向やファンドの資金動向その他の要因等によっては、ファンドの解約資金の手当てのために株式等を市場で売却できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が下がる要因となります。
有価証券の貸付 に関するリスク	借主の利用方法、取引の規模、信用取引の状況や市場の環境等によっては当該有価証券の価格に影響を与える可能性があります。不測の事態により有価証券貸付先が破綻する可能性があります。この場合、貸付有価証券の返還を受けることが困難になり、担保権を実行して対象証券を市場から買い取ることになります。
12. セーフティー ネットの有無	年金投資基金信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
13. 持分の計算方法	<p>解約価額(= 基準価額) × 保有口数</p> <p>※ 基準価額・解約価額は、10,000口あたりで表示されておりますので、10,000で除してください。</p>
14. 運用会社	株式会社りそな銀行

(運営管理機関)りそな銀行

- ◆ 当資料は、確定拠出年金法第24条および関連政省令に規定されている「運用の方法に係る情報の提供」に基づき、当商品の内容をご説明するために作成されたものであり、当該年金投資基金信託の勧誘を目的とするものではありません。
- ◆ 年金投資基金信託は、金銭信託商品であり、証券投資信託商品ではありません。
- ◆ 年金投資基金信託は、株式など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金および投資成果が保証されているものではありません。年金投資基金信託の運用による損益は、購入者に帰属します。
- ◆ 上記商品内容をご確認のうえ、確定拠出年金法第24条に基づき別途ご提供する上記商品の過去の運用実績と併せて、ご自身で投資判断を行っていただきますようお願いいたします。

(2020.7)